



ジャトロファの実 ©FAO/Roberto Faidutti

ジャトロファで貧困削減 —FAOとIFADが報告書を発行

FAOと国際農業開発基金（IFAD）は、開発途上国においてジャトロファ（ナンヨウアブラギリ）をバイオ燃料に利用することで、貧しい農民に恩恵をもたらすことができるという報告書を発表しました。ジャトロファは、その種子をバイオディーゼル燃料に加工することができ、化石燃料や薪に比べ環境に負荷をかけることなく農村の貧しい世帯に灯りや調理燃料を提供することができます。また、トウモロコシのような他のバイオ燃料用作物と違って食用ではなく、また食用作物に適さない劣化した土地でも育てることができます。今後、インドネシアやガーナ、マダガスカル、ブラジルを中心に、生産量が大きく伸びることが予想されます。

報告書は一方で、ジャトロファはまだ品種改良がほとんどなされておらず、単収や種子の油分含有量などが不安定なうえ、現在生育されているものの多くは有毒で人体にも安全性に問題があるなど、まだ多くの課題があり、さらなる研究開発が必要であることを強調しています。（7/22、ローマ）

関連ウェブサイト

Jatropha: A Smallholder Bioenergy Crop : www.fao.org/docrep/012/i1219e/i1219e.pdf
Consultation on pro-poor jatropha development : www.ifad.org/events/jatropha
Bioenergy : www.fao.org/bioenergy
IFAD : www.ifad.org
FAO 日本事務所 : プレスリリース : ジャトロファ—貧しい人のためのバイオエネルギー作物 : http://www.fao.or.jp/media/press_100722.pdf

Contents

Top -----

ジャトロファで貧困削減

Articles -----

象やカバの襲撃に立ち向かう
ゾールキット

家畜疾病に立ち向かう
新たなアプローチ

ネパールの農村で
食料増産を支援

食品中のメラミンの基準値が
決まる

農村女性を支援するために
行動する

Perspectives ---

今月の視点
農業における公共政策の再考

Activities -----

テレフードイベント
10億人飢餓プロジェクト

Info -----

世界食料デー月間 2010

メールニュース配信のお知らせ

FAO 寄託図書館のご案内

テレフード募金にご協力を

本紙の配布について

今後の主な活動予定



動物保護区のアフリカ象 (ザンビア) ©FAO/M. Boulton

象やカバの襲撃に立ち向かう ツールキット

人口が急増しているアフリカを中心に、人の居住地と野生動物の生息地が接近することで、象やカバなどの野生動物が農作物を食べてしまったり、人がワニに襲われるといった経済面・安全面での被害が生じています。このためFAOは、世界自然保護基金（WWF）などの協力を得て、こうした事態に対応するためのツールキットを開発し、南部アフリカ一帯で試用を始めています。ツールキットには、野生動物に襲われた時の対処法といった実用的なアドバイスに加え、動物が移動できるような回廊を設けたり、ワニの餌になる魚の乱獲を防ぐなどの予防策も提唱しています。予防策は、人だけでなく動物を守ることにつながります。さらに、例えば国立公園や自然保護区の観光収入の一部を地元の農民に還元していくことを通して、動物を排除の対象ではなく資産と認識し、動物と共存していけるような仕組みを探ることも重要です。（7/19、ローマ）

関連ウェブサイト

Human-Wildlife Conflict in Africa : www.fao.org/docrep/012/i1048e/i1048e00.htm
FAO Forestry Department : www.fao.org/forestry

家畜疾病に立ち向かう 新たなアプローチ

畜産物の消費量の高まりに応えるための畜産の集約化や、飼育地と野生環境との接近などによって、家畜疾病が増加し、新たな病原体が出現する脅威も高まっています。FAOは、こうした新たな病原体に対する防除体制が十分に整っていない南・東南・中央アジアやラテンアメリカに重点を置いた新たな戦略づくりを目指し、国際獣疫事務局（OIE）、世界保健機関（WHO）とともに「One Health」イニシアティブを立ち上げました。（7/26、ローマ）

関連ウェブサイト

Global Animal Disease Information System : empres-i.fao.org/empres-i
Emergency Prevention System for Transboundary Animal and Plant Pests and Diseases (EMPRES) : www.fao.org/ag/againfo/programmes/en/empres/home.asp
Animal Production and Health : www.fao.org/ag/againfo/home

ネパールの農村で 食料増産を支援

ネパール西部の農村では、多くの農民が1haにも満たない土地で農業と畜産を営んでいますが、良質の種子やかんがい設備の不足、天候不順などによって慢性的な食料不足に陥っています。さらに、2008年の食料・燃料価格の高騰も、これに追い打ちをかけました。

FAOはネパール政府や地元のNGOの協力を得て、この地域の3万世帯を対象に、高収量品種の種子や肥料の提供を行いました。この結果、2008/2009年の冬には厳しい干ばつに見舞われたにもかかわらず、2009年には人々は何とか増産にこぎつけることができました。かつては食料の完全自給が達成されていたネパールですが、現在、300万人が食料援助を必要としています。小規模農家の市場や情報へのアクセスの整備に加え、特に土地を持たない農業者にはさまざまな農業技術のトレーニングが求められます。（7/13、ローマ）

関連ウェブサイト

Nepal: helping poor farmers grow more food : www.fao.org/english/newsroom/photos/2010/NepalGallery-en
FAO Initiative on Soaring Food Prices : www.fao.org/isfp
ISFP-Nepal : www.fao.org/isfp/country-information/nepal
Nepal country profile : www.fao.org/countryprofiles/index.asp?lang=en&ISO3=NPL
Q&A: Boosting agricultural production by 30 percent in Nepal : www.fao.org/europeanunion/un-news/news-stories-eu/detail-news/en/?no_cache=1&dyna_fef%5buid%5d=41391

ネパールでは多くの人が農業で生計を立てている
©FAO/Sailendra Kharel





コーデックスは食品の質と安全を守る手助けをする ©FAO / Giulio Napolitano

食品中のメラミンの基準値が決まる

FAOとWHOが運営するコーデックス（国際食品規格）委員会において、食品に含まれるメラミンの最大基準値を、調整粉乳では1mg/kg、その他の食品や家畜飼料では2.5mg/kgとすることが決まりました。メラミンは食器や台所用品などの工業製品のプラスチック製造過程で使用する化学物質で、健康に影響のない範囲で日常的に体内にも取り込まれていますが、一度に一定量を摂取すると有害となります。最近では、調整粉乳やペットフードのたんぱく質含有量を増やすために違法に使用され、乳幼児の死亡や疾患を引き起こしています。基準の策定により、各国政府は、健康に害のない含有と意図的な混入とを区別することができるため、国際貿易に不必要な障害を設けることなく、国民の健康を守ることができます。（7/6、ジュネーブ・ローマ）

関連ウェブサイト

Codex Alimentarius Commission - Agenda (in pdf) : ftp.fao.org/codex/CAC/CAC33/cac33_01e.pdf
Codex Alimentarius : www.codexalimentarius.net
FAO Programme on Food Safety and Quality : www.fao.org/ag/agn/agns
WHO Programme on Food Safety : www.who.int/foodsafety
Codex videos on Youtube : www.youtube.com/CodexAlim#p/u/4/aVbHj97_pMo

農村女性を支援するために行動する

国連経済社会理事会の年次閣僚レビュー会議の期間中、FAOはIFAD、WFP（世界食糧計画）とともに、農村女性が直面する問題への各国の取り組みを共有するサイドイベントを実施しました。リベリアの農業大臣は、農業資材の配布先リストに女性を組み入れることで食料増産につながった取り組みを紹介しました。米国国務省の「Feed the Future（未来を養う）」イニシアティブの担当者は、女性は収入を子どもの健康や栄養に当てるため、女性への支援は将来にわたって戦略的に効果的と訴えました。ブラジルの農民活動家は、女性を意思決定の場に参画させる重要性を呼びかけました。（7/1、ニューヨーク）

関連ウェブサイト

ECOSOC 2010 Annual Ministerial Review : www.un.org/en/ecosoc/newfunc/amr2010.shtml
FAO Gender Programme : www.fao.org/gender
Rural women as agents of change: FAO preps for June ECOSOC review : www.fao.org/gender/gender-home/gender-news/gender-news-det/en/?dyna_fef%5Buid%5D=41426&dyna_fef%5
IFAD : www.ifad.org
WFP : www.wfp.org

今月の視点

農業における公共政策の再考

サハラ以南アフリカ諸国など多くの開発途上国において、特に、1980年代から、農業への公的部門の政策介入をできるだけ削減し、市場メカニズムにゆだねる政策、いわゆる「構造調整政策」がとられてきました。しかし、一般的に、このような政策は、貧困国における農業の停滞を招く一方、経済成長をもたらすことはありませんでした。このため、農業における公共政策のあり方についての再考が必要となっています。

FAOが最近10カ国のケーススタディに基づき取りまとめたレポートでは、農業における公的部門の役割について、次の3点を指摘しています。第1に、経済発展を遂げたすべての国において、初期段階では、政府が農業支援のために大きな役割を果たしてきています。第2に、すべての国に適用されるような画一的な政策はないため、イデオロギー的に固執するというよりは、よりプラグマチックなアプローチをとることが肝要です。第3に、農業は、公的部門の政策、支援が継続的に行われる場合に、最も発展していきます。特に、経済開発の初期段階では、食料の価格安定、供給確保、さらには政治的安定のため、農業政策の継続が重要な意味を持ちます。

（FAO日本事務所長 横山 光弘）

参考資料：「Rethinking public policy in agriculture : Lessons from distant and recent history」FAO, 2009

Activities

テレフードイベント

10月13日（水）、横浜みなとみらい大ホールにおいて「FAOテレフードチャリティーコンサート2010『大地の詩』」が開催されます。ピアニストの西本梨江さんにヤオカリナ奏者の宗次郎さんを迎え、「故郷の大地へ」をテーマにさまざまな曲が演奏されます。コンサートの収益金はテレフード募金に寄付されます。お問い合わせ・チケットのお申し込みはFAOコンサート事務局（TEL：045-835-1512）まで。

関連ウェブサイト

TeleFood campaign：www.fao.org/getinvolved/telefood

FAO日本事務所：日本事務所発ニュース：テレフードチャリティーコンサート詳細：www.fao.or.jp/media/news_100729.pdf



10億人飢餓プロジェクト

世界では約10億の人々が栄養不足に苦しんでいます。この状況が耐え難いものであることを世界の指導者たちに訴えるため、FAOは「The 1 billion hungry project (10億人飢餓プロジェクト)」を立ち上げ、世界の一般市民の方々に、ウェブサイトを通じた署名に協力を呼びかけています。日本語のウェブサイトも公開されていますので、ぜひ署名にご協力ください。各国のイベントの様子や著名人による呼びかけの様子もご覧いただけます。

関連ウェブサイト

10億人飢餓プロジェクト：www.1billionhungry.org/jp
FAO日本事務所：ピックアップ：黄色い警鐘の笛：www.fao.or.jp/media/pikup_1bh.leaflet.pdf

世界食料デー月間2010

10月16日は「世界食料デー」。国内外で飢餓・食料問題に取り組む国際機関やNGO・NPOは、10月1-31日を「世界食料デー月間」として期間中にさまざまな取り組みを行います。詳しくは「世界食料デー月間」特設サイトをご覧ください。

www.worldfoodday-japan.net/



メールニュース配信のお知らせ

FAO日本事務所では、FAOに関する各種情報をEメールで不定期に配信しています。ご希望の方は下記までご連絡ください。

FAO-Japan-Info@fao.org

FAO 寄託図書館のご案内

所在地

神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1

パシフィコ横浜 横浜国際協力センター5階

FAO日本事務所内

利用予約および問い合わせ

TEL：045-226-3148

E-mail：fao-library@jaicaf.or.jp

開館時間

平日10：00-12：30、13：30-17：00

テレフード募金にご協力を

募金は、アジアやアフリカの食料不足の地域で、貧困農民の食料増産を支援する「テレフード・プロジェクト」に使用されます。

※振替手数料無料。ご寄付は税金控除の対象となります。

郵便振替口座

00140-1-29732

FAO 飢餓撲滅草の根募金



本紙の配布について

本紙「FAO Newsletter」は、季刊誌「世界の農林水産—FAO ニュース—」とセットでJAICAFの会員にお送りしています。ご希望の方はJAICAFまでお申し込みください。指定場所でも配布しています。詳しくはJAICAFウェブサイトをご覧ください。

今後の主な活動予定

2010.9.3

セミナー「最近の開発途上国農業への海外直接投資の動向について」

講師：デービット・ハラム（FAO 経済社会局貿易市場部次長）

場所：東京／政策研セミナー室

FAO日本事務所、政策研共催

2010.9.28-10.3

APEC 横浜開催記念イベント

—APECを通じて世界を見つけよう！—

場所：神奈川／横浜赤レンガ倉庫

横浜市主催

FAO日本事務所パネル展示

2010.10.2-3

グローバルフェスタ JAPAN 2010

場所：東京／日比谷公園

外務省、JICA、JANIC 共催

FAO日本事務所ブース出展

2010.10.13

テレフードチャリティーコンサート2010「大地の詩」

場所：神奈川／横浜みなとみらい大ホール

FAOコンサート実行委員会、FAO日本事務所主催

2010.10.11-16

The 36th Session of Committee on World Food Security (CFS)

2010.10.16

世界食料デー

2010.10.16-17

よこはま国際フェスタ2010

場所：神奈川／象の鼻パーク・波止会場

よこはま国際協力・国際交流プラットフォーム主催

FAO日本事務所ブース出展

2010.10.29-31

食と花の世界フォーラムにいがた2010

場所：新潟／新潟コンベンションセンター

朱鷺メッセほか

食の花の世界フォーラム組織委員会ほか主催

30-31日にFAOパネル展「世界の食と農」を開催

発行：(社)国際農林業協働協会 (JAICAF)

〒107-0052

東京都港区赤坂8-10-39 赤坂KSAビル3階

TEL：03-5772-7880

E-mail：fao@jaicaf.or.jp

URL：www.jaicaf.or.jp

共同編集：宮道 りか、Linda Yao (FAO日本事務所)

森 麻衣子、今井 ちづる (JAICAF)

デザイン：岩本 美奈子

News source：www.fao.org

この用紙は再生紙を使用しています

FAO Newsletter

Sep. 2010

vol.54